

来月2日、能代 アランマーレの試合会場

松陽高生「玉こん」販売

能代市総合体育館で12月2日にバスケットボール女子Wリーグのアランマーレ秋田がシャンソン化粧品と対戦するのの前に、能代松陽高校(川村寿紀校長)の3年生が物販を企画している。地元開催を盛り上げるのが狙い。校内でアイデア発表会を行い、最優秀賞に玉こんにゃくを販売する提案を選定。2日に会場で販売する予定だ。

3年生46人が6グループに分かれ、9月から物販企画の準備に着手。チームを運営するプレステージ・インターナショナルの社員から助言を受けたり、集客データを分析したりしてアイデアを練り、発表資料作りを進めてきた。11月7日に発表会を開き、各グループが物販のターゲット層や販売目標、価格設定、

味付けに 大会盛り上げへ一役

利益率を発表。同社社員や同校教員計5人がコンセプトや集客効果、地域貢献度などを基準に審査した。

最優秀賞に選ばれたのは、玉こんにゃくを販売する提案。市特産の白神ねぎや市内の老舗こうじ店のみそを味付けに使い、地元食材の魅力をアピールしている。グループリーダーの畠山響さんは「企画を一から作るこの大変さを実感した。観客席での食べやすさ考えてアイデアを練ったので、当日は完売を目指したい」と力を込めた。アランマーレ秋田が高校との連携企画を展開するのは、秋田商業高校(秋田市)に続く校目。プレステージ・インターナショナルは、業務体験を通じて若者の地元定着や人材育成につなげる考えだ。

審査員を務めた同社秋田BPO漏上ランチの古谷和

博プロジェクトリーダー(97)は「高校生ならではの着眼や発想で、面白いアイデアを出してもらえた。今後の企画づくりの刺激になる」と語った。

(加藤龍太郎)



生徒が企画内容を説明した発表会。地元食材を使った玉こんにゃくを販売するアイデアが最優秀賞に選ばれた